



## Cisco UCS Director リリース ノート、リリース 5.3

### Cisco UCS Director 2

システム要件 2

インストールおよびアップグレードに関する注意事項 2

新機能および変更された機能 5

このリリースでのワークフロー タスクの変更 11

未解決のバグおよび解決されたバグ 13

関連資料 15

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート 15

改訂 : July 30, 2015,

## Cisco UCS Director

Cisco UCS Director は、サポート対象のコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、仮想化プラットフォーム、および Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) と Cisco Nexus プラットフォームに基づいた業界をリードするコンバージドインフラストラクチャソリューションに対し、統一され安全性に優れた管理を提供します。Cisco UCS Director は、Cisco UCS を通じてコンピューティング層およびネットワーク層の統合を拡張し、コンピューティング、ネットワーク、ストレージおよび仮想化に対する包括的な可視性と管理機能をデータセンター管理者に提供します。詳細については、[Cisco.com](#) で [Cisco UCS Director](#) を参照してください。

## システム要件

[Cisco UCS Director のインストールおよびアップグレードガイド](#)に、このリリースの以下に関するシステム要件が記載されています。

- VMware vSphere
- Microsoft Hyper-V

### サポートするブラウザバージョン

Cisco UCS Director は、以下のブラウザをサポートしています。これらのブラウザには、Adobe Flash Player 11 プラグインが必要です。

- Internet Explorer 8 以降
- Google Chrome 4.1 以降
- Firefox 3.5 以降
- Safari 4.0 以降 (Apple Mac または Microsoft Windows の場合)

いずれのブラウザにしても Adobe Flash Player プラグインバージョン 11 以降がインストールされている必要があります。

## インストールおよびアップグレードに関する注意事項

Cisco UCS Director は、VMware には OVF 形式、Microsoft Hyper-V には VHD 形式で提供される標準の仮想マシンを使用します。Cisco UCS Director は VMware vSphere または vCenter、あるいは Microsoft Hyper-V Manager でホストできます。インストール手順については、該当する [Cisco UCS Director のインストールおよびアップグレードガイド](#)を参照してください。



---

(注) アップグレードパッチを適用して、そのインストールを完了した後、ShellAdmin の [サービスの開始 (Start Services) ] オプションを選択し、Cisco UCS Director サービスを開始/再開して、パッチプロセスを完了します。サービスが開始し、Cisco UCS Director が使用可能になり、ログイン画面が表示され、管理ユーザが UCSD にログインできるまで、パッチプロセスは完了または成功したとはいえません。

追加パッチの適用、データベースのバックアップ、バックアップからのデータベース復元など、すべての Cisco UCS Director サービスは他の ShellAdmin プロシージャを実行する前に停止する必要があります。

---

## ワークフローのアップグレード前提条件

APIC Usecases ワークフロー フォルダの構造とそれらのフォルダのワークフローの名前が変更されました。



---

(注) APIC コンテナの作成ワークフローを実行する前に、(L4-L7 ポリシーまたは外部/インフラ階層情報を追加するためには) 新しいアプリケーション プロファイルを作成するか既存のプロファイルを編集する必要があります。

---



---

(注) Cisco UCS Director リリース 5.3 にアップグレードする前に、次を含む既存の APIC Usecases フォルダとそれらのフォルダ内のすべてのシステムワークフローを削除する必要があります。アップグレード後、新しいフォルダ構造と新しいシステムワークフローに置き換えられます。

- APIC Usecases フォルダと次のサブフォルダ :
    - VNX ストレージ Usecases フォルダ
    - L4-L7 Usecases フォルダ
    - NetApp ストレージ Usecases フォルダ
  - 次の場所にある APIC コンテナ Usecases フォルダ : [デフォルト (Default) ] > [コンテナ (Containers) ] > [APIC コンテナ Usecases (APIC Container Usecases) ]
- 



---

(注) MSP モードを有効にしている場合、サービスを停止する前に MSP-VNX ワークフローでテナント オンボーディングを削除する必要があります。

---



(注) また、アップグレードする前に、オーケストレーション下の [カスタムワークフロータスク (Custom Workflow Tasks) ] タブから **Common\_Tenant\_Identity** カスタム タスクを削除する必要があります。

## Cisco UCS Director でサポートされるアップグレードパス

Cisco UCS Director リリース 5.3 へのアップグレードパスは、ご使用中の Cisco UCS Director のバージョンにより異なります。Cisco UCS Director リリース 5.3 でサポートされるアップグレードパスは、以下のとおりです。

Cisco UCS Director の前のリリースへのアップグレード方法については、[該当するリリースのインストールとアップグレードのマニュアル](#)を参照してください。たとえば、リリース 3.x からアップグレードする必要がある場合は、最初にリリース 4.0 にアップグレードしてから、そのアップグレードパスに従う必要があります。

現在のリリース	直接アップグレードのサポート	アップグレードパス
リリース 4.0.x.x	いいえ	4.0 > 4.1 > 5.1 > 5.3
リリース 4.1.x.x	いいえ	4.1 > 5.1 > 5.3
リリース 5.0.x.x	いいえ	5.0 > 5.1 または 5.2 > 5.3
リリース 5.1.x.x	はい	5.1 > 5.3
リリース 5.2.x.x	はい	5.2 > 5.3

## Baremetal Agent でサポートされるアップグレードパス

Cisco UCS Director Baremetal Agent (Baremetal Agent) リリース 5.3 へのアップグレードパスは、ご使用中の Baremetal Agent のバージョンによって異なります。

Baremetal Agent の以前のリリースからのアップグレード方法についての詳細は、[該当するリリースのインストールとアップグレードのマニュアル](#)を参照してください。たとえば、リリース 4.x からアップグレードする必要がある場合は、最初にリリース 5.0 にアップグレードしてから、そのアップグレードパスに従う必要があります。



(注) Baremetal Agent リリース 5.3 は、Baremetal Agent リリース 5.2 へのアップグレードパッチです。完全な OVF ではありません。

現在のリリース	直接アップグレードのサポート	アップグレードパス
リリース 4.0.x.x	いいえ	4.0 > 5.0 > 5.2 > 5.3
リリース 4.1.x.x	いいえ	4.1 > 5.0 > 5.2 > 5.3

現在のリリース	直接アップグレードのサポート	アップグレードパス
リリース 5.0.x.x	いいえ	5.0 > 5.2 > 5.3
リリース 5.2.x.x	はい	5.2 > 5.3



(注) Baremetal Agent にリリース 5.1 はありません。Cisco UCS Director リリース 5.1 を使用している場合は、システムに Baremetal Agent リリース 5.0 が含まれています。

## 新機能および変更された機能

ここでは、このリリースの重要な新機能および変更された機能の概要について説明します。ここでは、このリリースに含まれる機能拡張のすべては網羅しません。



(注) このリリースの Cisco UCS Director でサポートされる物理および仮想デバイスならびにソフトウェアについては、[このリリースの互換性マトリクス](#)を参照してください。

### C880 M4 サーバのサポート

Cisco UCS Director リリース 5.3 には、Cisco C880 M4 サーバの管理、モニタリング、およびレポートタスクを実行するためのサポートが含まれています。以前は、このサポートはパッチとして提供され別途インストールする必要がありました。このリリースでは、Cisco C880 M4 サーバを管理するための追加のインストール作業を行う必要はありません。

C880 M4 サーバの管理の詳細については、『*Cisco UCS Director C880 M4 Server Management Guide, Release 5.3*』を参照してください。

### VersaStack および IBM Storwize のサポート

Cisco UCS Director リリース 5.3 には、IBM Storwize コントローラの管理、モニタリング、およびレポートタスクを実行するためのサポートが含まれています。以前のリリースでは、このサポートはパッチとして提供され別途インストールする必要がありました。このリリースでは、これらのコントローラを管理するための追加のインストール作業を行う必要はありません。

IBM Storwize コントローラの追加および管理に関する詳細については、『*Cisco UCS Director Management Guide for IBM Storwize, Release 5.3*』を参照してください。

### レポート API の変更点

このリリースでは、お客様の組織名は次のレポート API でグループ名に置き換えられています。

- グループ共有ポリシー レポート

- ユーザ グループ レポート
- カタログ レポート
- vFiler レポート
- Vserver レポート
- ユーザ レポート
- データストア レポート
- DV PortGroup レポート
- イメージ レポート
- ポート グループ レポート
- リソース プール レポート
- サービス プロファイル レポート
- VLAN レポート
- VM ネットワーク 詳細レポート
- Raid グループ レポート
- VNX ブロック RAID グループ レポート
- VNX ファイル ストレージ プール レポート
- ボリューム レポート
- VDC レポート
- DV ポート グループ レポート

### EMC RecoverPoint サポートの機能拡張

EMC RecoverPoint サポートの機能拡張には、次が含まれています。

- イメージアクセスの有効時に、追加のイメージアクセスのオプションおよびモードから選択する機能。
  - 新しいイメージアクセスのオプションには、[最新イメージ (The Latest Image)] と [時間またはブックマークの特定のポイント (Specific Point in Time or Bookmark)] が含まれています。
  - 新しいイメージアクセス モードのオプションには、[ログされたアクセス (Logged Access)]、[仮想アクセス (Virtual Access)] および [ロールによる仮想アクセス (Virtual Access with Roll)] が含まれています。
- コンシステンシ グループの作成、およびコンシステンシ グループ コピーの作成時における、無制限のスナップショット統合のサポート。

詳細については、『Cisco UCS Director EMC RecoverPoint Management Guide, Release 5.3』を参照してください。

## VMware vSphere サポートの機能拡張

VMware vSphere サポートの機能拡張には、次が含まれています。

- 次を対象とする、仮想 SAN クラスタ管理のサポート
  - 仮想 SAN クラスタ
  - 物理サーバからの仮想 SAN クラスタ
  - 仮想 SAN ストレージプロファイル
  - 仮想 SAN 認定ポリシー
- ストレージに関する VMware アフィニティルールのサポート。この機能によって、データストア クラスタ DRS ルールを追加および管理することができます。

詳細については、『Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide, Release 5.3』を参照してください。

## EMC Symmetrix VMAX サポートの機能拡張

EMC Symmetrix VMAX サポートの機能拡張には、次が含まれています。

- VMAX アカウントタイプが EMC VMAX ソリューション イネーブラ から EMC VMAX に変更されます。
- VMAX インベントリ タスク ラベルが VMAX-Inventory - (Account\_Name) から EMCVMaxInventoryCollector - (Account\_Name) に変更されます。
- VMAX インベントリの頻度が 12 時間に変更されます。
- Cisco UCS Director への VMAX アカウントの追加時に VMAX Symmetrix アレイ ID が必要になります。

VMAX アカウントが以前のリリースで追加されていた場合、最初の Symmetrix アレイのみがソリューション イネーブラで利用できると見なして、このアカウントが自動的に移行されます。他のアレイを Cisco UCS Director で管理する必要がある場合は、必要な Symmetrix アレイ ID を指定して、新しい VMAX アカウントを追加する必要があります。
- ディスク グループというタイトルの新しいレポートがシステム レポート下に追加されます。既存のディスク レポートは、ディスク グループ下でドリルダウンレポートに変更され、ディスク グループに属するディスクのみが表示されます。
- 正規デバイスのサポート。正規デバイスの作成、正規デバイスの削除のサポートに加え、次のタスクと処理に関するサポートが追加されました。
  - VMAX メタ デバイスの作成
  - メタ ヘッドへのデバイスの追加
  - メタ ヘッドからのデバイスの削除
  - メタの解除
  - ストレージ グループへのデバイスの追加
  - ストレージ グループからのデバイスの削除

- データストアとしてのデバイスの関連付け

詳細については、『Cisco UCS Director EMC Symmetrix VMAX Management Guide, Release 5.3』を参照してください。

### アプリケーション コンテナの機能拡張

アプリケーション コンテナの機能拡張には、次が含まれています。

- 既存のテンプレートを選択するか、またはアプリケーション プロファイルで定義されたテンプレートを使用することで、アプリケーション コンテナに VM を作成するためのサポート。
- アプリケーション コンテナに物理サーバと VM を追加するためのサポート。
- アプリケーション コンテナでの VM の作成時に VM パラメータを指定するためのサポート。アプリケーション コンテナで作成する VM に対する仮想 CPU の数、メモリ サイズ、およびディスク サイズを指定できるようになりました。
- APIC コンテナでのレイヤ 4～レイヤ 7 サービスへのサポート。これには、次の事項が含まれます。
  - APIC コンテナでレイヤ 4～レイヤ 7 サービスを追加、変更、削除できます。
  - APIC アプリケーション プロファイルの一部としてレイヤ 4～レイヤ 7 サービスを作成することができ、コンテナが作成されるとそのサービスはプロビジョニングされます。
  - APIC コンテナの 2 階層間でファイアウォールとロード バランサを連結できます。これは、サービス チェーンと呼ばれます。

詳細については、『Cisco UCS Director APIC Management Guide, Release 5.3』を参照してください。

### ワークフローの実行に関する機能拡張

ワークフローの実行に関する機能拡張では、サービス要求を再提出するためのサポートが強化されています。サービス要求を再提出すると、前回の実行時に失敗したところでサービスが再開します。子タスクや複合ワークフローであっても同様です。

詳細については、『Cisco UCS Director Orchestration Guide, Release 5.3』を参照してください。

### 複合タスクのバージョンの管理に関する機能拡張

複合タスクのバージョンの管理

『Cisco UCS Director Orchestration Guide』の新しい項では、別のワークフローで複合タスクとして使用されるワークフローのさまざまなバージョンの動作について説明しています。

詳細については、『Cisco UCS Director Orchestration Guide, Release 5.3』を参照してください。

### スクリプト モジュールの機能拡張

スクリプト モジュールの機能拡張には、次が含まれています。

- 値のリスト (LOV) の導入：ユーザ入力に関する定義済みオプションのセットを表示する値のリスト (LOV) を作成できます。

- コンテキストマッピングのサポート：コンテキストマッピングモジュールによって、コンテキストワークフローマッピングを動的に追加することができます。コンテキストワークフローマッピングは、レポート用のアクションラベルを作成し、そのアクションラベルにワークフローを割り当てます。
- 表形式レポートのサポート：ユーザがカスタムワークフローへの入力として渡される定義済み値のセットを定義できるように、表形式レポートを作成できます。

詳細については、『*Cisco UCS Director Orchestration Guide, Release 5.3*』を参照してください。

### **Cisco UCS Director REST API の機能拡張**

REST API の機能拡張には、次の API の追加または改善が含まれています。

- ユーザの詳細とユーザ アカウント
- サービス要求
- サービス コンテナ
- APIC コンテナ
- アプリケーション コンテナ
- 仮想マシン
- ワークフローの操作
- ロード バランサ サービスの操作
- ファイアウォール サービス コンテナ

詳細については、『*Cisco UCS Director REST Developer Guide, Release 5.3*』を参照してください。

### **ネットワーク デバイス サポートの機能拡張**

ネットワーク デバイスのサポートは、次のものが追加され強化されました。

- Hyper-V で設定されるネットワーク デバイスの VXLAN 機能を有効にするためのプロビジョニング。
- Cisco Nexus 1000V スイッチの ACL エントリに MAC ACL ルールまたは IP ACL ルールを追加するためのサポート。
- VXLANをサポートするための次のオブジェクトの機能を変更するための新しいフィールドと処理が導入されました。
  - 論理ネットワーク
  - ネットワーク セグメント プール
  - ネットワーク セグメント
  - VXLAN 範囲
  - テナント VRF

詳細については、『Cisco UCS Director Network Devices Management Guide, Release 5.3』を参照してください。

### APIC 管理の機能拡張

APIC 管理のサポートは、次のプロビジョニングが追加され強化されました。

- テナントの機能プロファイル グループの表示。
- デバイスのクラスタ状態および論理インターフェイスの表示。
- APIC アカウント内のレイヤ 2 ドメインのリストの表示。
- サービス機能のリストとレイヤ 4～レイヤ 7 のサービス機能コネクタの詳細の表示。
- EPG との契約アソシエーションの詳細の表示。
- レイヤ 4～レイヤ 7 のサービス ポリシーの追加と管理。

詳細については、『Cisco UCS Director APIC Management Guide, Release 5.3』を参照してください。

### NetApp アカウントの管理の機能拡張

NetApp アカウントの管理のサポートは、次のものが追加され強化されました。

- クラスタ モードアカウントでの Vserver の管理を強化するための新しいタブ。
- Vserver 管理者による Vserver アカウントの個別管理。
- NetApp クラスタ化データ ONTAP バージョン 8.3 のサポート。

詳細については、『Cisco UCS Director NetApp Management Guide, Release 5.3』を参照してください。

### Cisco UCS Director オープンオートメーション ツールの機能拡張

Cisco UCS Director オープンオートメーション ツールの機能拡張には、次が含まれています。

- 改ページ：CloupiaReportWithActions および PaginatedReportHandler クラスを使用して、ページ間でデータ分割を管理するためにプロビジョニングします。
- 国際化およびローカリゼーションのガイドライン：これらのガイドラインは、新しいレポートを作成するためのもので、適切な国際化とローカリゼーションを実行するための文字列の外部化によるオープンオートメーションモジュールの UI 要素を形成します。

詳細については、『Cisco UCS Director Open Automation Developer Guide, Release 5.3』を参照してください。

### Cisco UCS Director その他の機能拡張

Cisco UCS Director その他の機能拡張には、次の改善が含まれています。

- MSP 組織および顧客グループに対するリソース制限の指定。
- グループに VM イメージを割り当てる機能
- コスト モデルは、アプリケーション コンテナにマッピングできるようになりました。

- コストモデルには現在、物理サーバのパラメータが含まれています。
- アプリケーション コンテナ内の物理サーバのチャージバック モジュールへのサポート。

詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide, Release 5.3』を参照してください。

## このリリースでのワークフロー タスクの変更

以下に、このリリースでのワークフロー タスクの変更と、その変更による既存のワークフローへの影響（該当する場合）を説明します。

ワークフロー タスク	変更内容	問題の回避策
vCenter へのホストの登録	マッピング可能なユーザ入力 の [パスワード (Password) ] フィールドのタイプが [汎用テ キスト入力 (Generic Text Input) ] から [パスワード (Password) ] に変更されまし た。	[パスワード (Password) ] フィールドの入力タ イプを [汎用テキスト入力 (Generic Text Input) ] から [パスワード (Password) ] に変更します。
VMware クラウドへの OVF イ ンポート		
BMA 選択を使用した PXE ブー トのセットアップ		
VNX CIFS サーバの追加		
iSCSI LUN のマウント		
PowerShell コマンドの実行		
カスタム ユーザの承認	[承認者ID (Approver ID) ] フィールドが [ユーザID (User ID) ] から [マルチユーザID (Multi User ID) ] に変更され ました。  これは、ワークフローの実行中 に、カンマで区切ることで複数 のユーザ ID を指定できること を意味します。	[承認者ID (Approver ID) ] フィールドの入力タ イプを [ユーザID (User ID) ] から [マルチユー ザID (Multi User ID) ] に変更します。
VMAX ThinDev をデータストア として関連付け	タスク名が変更され、新しい入 力フィールド [ホストの選択 (Select Host) ] と [マウントす るデバイスの選択 (Select Devices to Mount) ] が追加され ました。	既存のタスクを削除し、VMAX ThinDev をデー タストアとして関連付けタスクをワークフロー に追加します。

ワークフロー タスク	変更内容	問題の回避策
VMAX ストレージ グループへのデバイスの追加	新しい入力フィールド [デバイス タイプ (Device Type) ] と [正規デバイスID (Regular Device Identity) ] が追加されました。	回避策は必要ありません。 [デバイス タイプ (Device Type) ] がデフォルトの [シンデバイス (Thin Device) ] になります。 タスクを開き、入力を必要に応じて変更します。
VMAX メタ デバイスの作成	新しい入力フィールド [デバイス タイプ (Device Type) ] と [正規デバイスID (Regular Device Identity) ] が追加されました。	回避策は必要ありません。 [デバイス タイプ (Device Type) ] がデフォルトの [シンデバイス (Thin Device) ] になります。 タスクを開き、入力を必要に応じて変更します。
VMAX データ デバイスの作成	[ディスクグループ (Disk Group) ] フィールドの入力がポップアップからドロップダウン リストに変更されました。	タスクを開き、[ディスクグループ (Disk Group) ] フィールドの入力タイプを変更します。
イメージアクセスの有効化 (RecoverPoint タスク)	<p>次の新しい入力フィールドが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセスするイメージ</li> <li>• イメージアクセスモード</li> <li>• ポイントインタイム</li> <li>• 秒</li> <li>• [Bookmarks (ブックマーク) ]</li> <li>• 完全一致 (Exact)</li> <li>• イメージタイプ</li> <li>• 最大範囲</li> </ul>	既存のタスクを削除して、新しいタスクと置き換えます。

ワークフロー タスク	変更内容	問題の回避策
実稼働の回復 (RecoverPoint タスク)	次の新しい入力フィールドが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセスするイメージ</li> <li>• ポイントインタイム</li> <li>• 秒</li> <li>• [Bookmarks (ブックマーク) ]</li> <li>• 完全一致 (Exact)</li> <li>• イメージタイプ</li> <li>• 最大範囲</li> </ul>	既存のタスクを削除して、新しいタスクと置き換えます。
フェールオーバーの運用 (RecoverPoint タスク)	次の新しい入力フィールドが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセスするイメージ</li> <li>• ポイントインタイム</li> <li>• 秒</li> <li>• [Bookmarks (ブックマーク) ]</li> <li>• 完全一致 (Exact)</li> <li>• イメージタイプ</li> <li>• 最大範囲</li> </ul>	既存のタスクを削除して、新しいタスクと置き換えます。
ホスト ノードへの iSCSI ストレージの登録 (NetApp CMode タスク)	[汎用テキスト入力 (Generic Text Input) ] フィールドが [VMwareストレージアダプタID (VMware Storage Adapter Identity) ]に変更されました。	タスクを開き、入力フィールドを変更します。

## 未解決のバグおよび解決されたバグ

このリリースで未解決のバグおよび解決されたバグには、[Cisco Bug Search Tool](#) を使用してアクセスできます。この Web ベース ツールから、この製品やその他のシスコハードウェアおよびソフトウェア製品でのバグと脆弱性に関する情報を保守する Cisco バグ追跡システムにアクセスできます。



(注) Cisco Bug Search Tool にログインしてこのツールを使用するには、Cisco.com アカウントが必要です。アカウントがない場合は、[アカウントを登録](#)できます。

Cisco Bug Search Tool の詳細については、[Bug Search Tool Help & FAQ](#) を参照してください。

## このリリースで未解決のバグ

このリリースで未解決のバグは、[Cisco Bug Search Tool](#) を使用して確認できます。リリース 5.2 で未解決のすべてのバグに関する詳細情報は、[リリース 5.3 の未解決バグを検索](#)することで確認できます。この検索では、次のパラメータを使用します。

フィールド	パラメータ
[製品 (Product) ] ドロップダウンリスト	[シリーズ/モデル (Series/Model) ] を選択し、Cisco UCS Director 5.3 を入力します。
[リリース (Releases) ] ドロップダウンリスト	[これらのリリースにおける影響または修正 (Affecting or Fixed in these Releases) ] を選択し、5.3(0.0) を入力します。
フィルタ	[ステータス (Status) ] ドロップダウンリストから [開く (Open) ] を選択します。

検索結果には、未解決のバグの回避策（存在する場合）も含まれます。

## このリリースで解決されたバグ

このリリースで解決されたすべてのバグは、[Cisco Bug Search Tool](#) で次の検索を行うことで確認できます。

### リリース 5.3 で解決されたバグ

リリース 5.3 で解決されたバグに関する詳細情報は、[リリース 5.3 の修正されたバグを検索](#)することで確認できます。

フィールド	パラメータ
[製品 (Product) ] ドロップダウンリスト	[シリーズ/モデル (Series/Model) ] を選択し、Cisco UCS Director 5.3 を入力します。
[リリース (Releases) ] ドロップダウンリスト	[これらのリリースにおける影響または修正 (Affecting or Fixed in these Releases) ] を選択し、5.3(0.0) を入力します。
フィルタ	[ステータス (Status) ] ドロップダウンリストから [修正 (Fixed) ] を選択します。

## 関連資料

これらのリリースノートに加え、Cisco.com の次の場所で、Cisco UCS Director リリース 5.3 に関する資料を参照できます。

- 『Cisco UCS Director Documentation Roadmap』
- Cisco UCS Director 製品概要ページ
- Cisco DevNet の Cisco UCS Director

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』では、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を、RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用して、コンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



#### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>